

令和8年度ママ下遺跡 発掘調査現地説明会 資料

令和8年8月1日(土)
一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

■ママ下遺跡の基本情報と発掘調査成果の概要

【基本情報】

- ・所在地：長野県飯田市上郷飯沼
- ・遺跡の立地：天竜川支流の土曾川^{どそがわ}右岸、標高約438mの低位段丘面上に位置する。
- ・調査の目的：中央新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
- ・調査対象面積：令和7年度2,406m²／令和8年度1,265m²
- ・調査期間：令和7年4月14日～12月22日／令和8年4月20日～8月31日予定

【令和7年度調査の主な遺構】

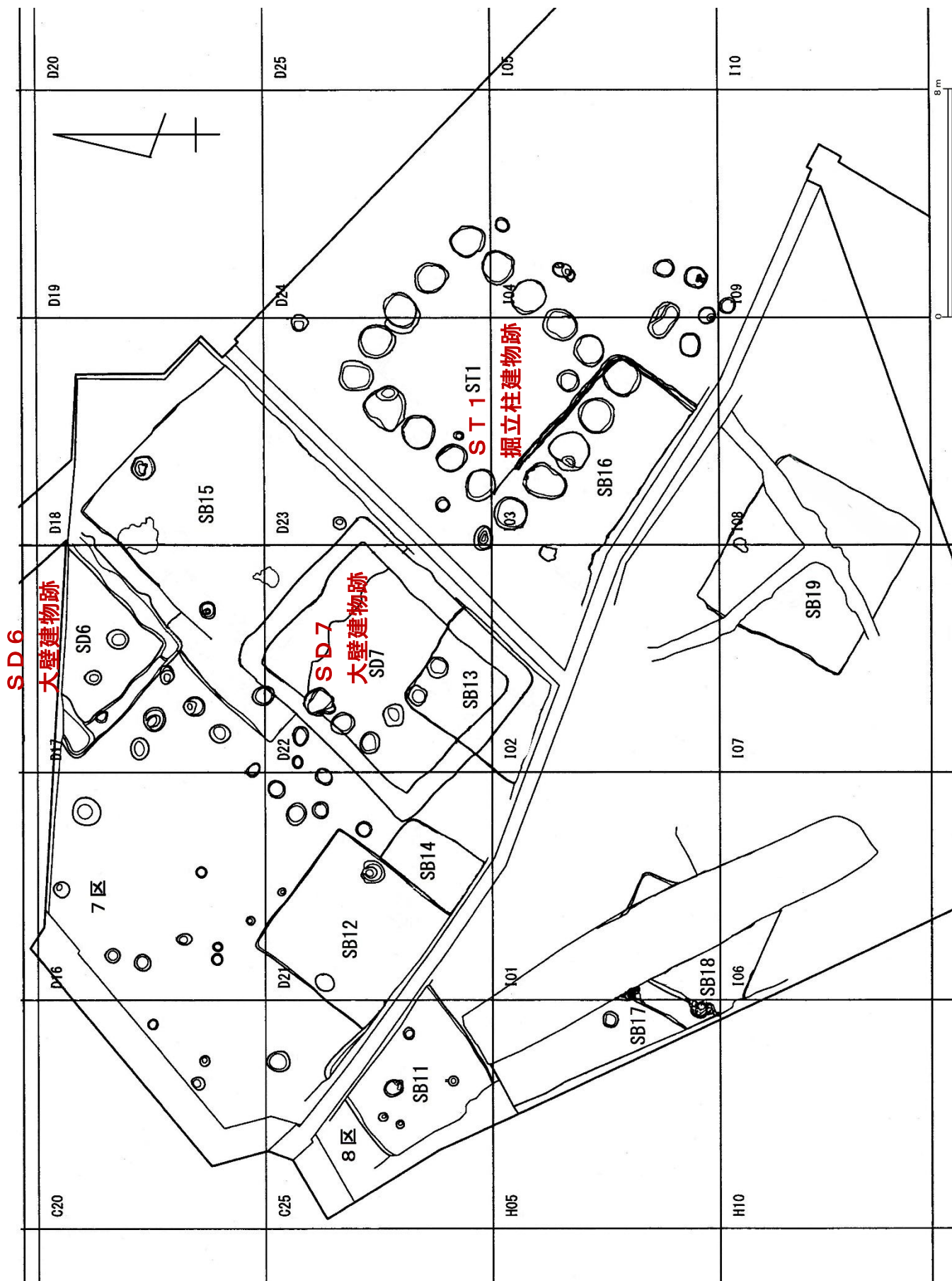
- ・竪穴建物跡 10軒（弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代）
- ・土坑 223基（掘立柱建物跡の柱穴を含む）

【令和8年度調査の主な遺構】

- ・竪穴建物跡 10軒（弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代）
- ・掘立柱建物跡 1軒（古墳時代）
ST1 ^{けたゆき}桁行5間・^{はりま}梁間4間（1間1.5m間隔）。時期は古墳時代後期。
- ・^{おおかべ}大壁建物跡 2軒（古墳時代）
 - (1)SD6／長辺(5.5)m・短辺5.5m・上幅45～100cm・深さ20～30cm
 - (2)SD7／長辺8.6m・短辺6.7m・上幅65～70cm・深さ40～56cmコーナー部分で柱穴を確認。
溝内出土土器の時期は古墳時代後期（6世紀代）。
建物跡に関係する硬化面や焼土^{ひさし}、底を支える柱穴、出入口施設は未確認。

■大壁建物跡に関するコメント（日本大学文理学部教授 ^{やまもと たかふみ}山本孝文先生）

- ・大壁建物は柱と壁が一体化した構造をもつ建物で、朝鮮半島に由来する。ママ下遺跡の大壁建物跡SD7と掘立柱建物跡ST1はほぼ同じ大きさで、軸を揃えた配置が特徴的であり、特殊な用途の建物群の可能性はある。
- ・大壁建物跡は、朝鮮三国の一つである朝鮮半島中西部の百済^{くだら}地域に集中してみつかる遺構であり、6世紀から7世紀前半頃に多く認められる。
- ・飯田地域では、朝鮮半島より持ち込まれた川原^{かわら}遺跡の百済土器^{わん}（盥）や、中国大陸・朝鮮半島に起源をもつ「L字形カマド」がママ下遺跡の以前の調査で発見されている。朝鮮半島由来もしくは半島経由の遺構・遺物が飯田地域に複数認められるのは興味深い。



ママ下遺跡 遺構配置図



S T 1 全景（南西から撮影）



S D 7 全景（南西から撮影）



SD 7 南西間 横断面（南東から撮影）



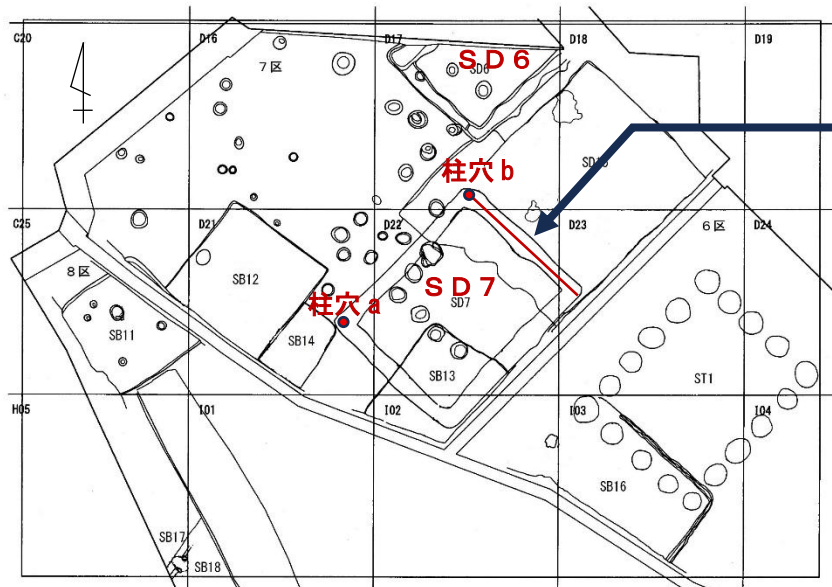
SD 7 北西間 横断面（南西から撮影）



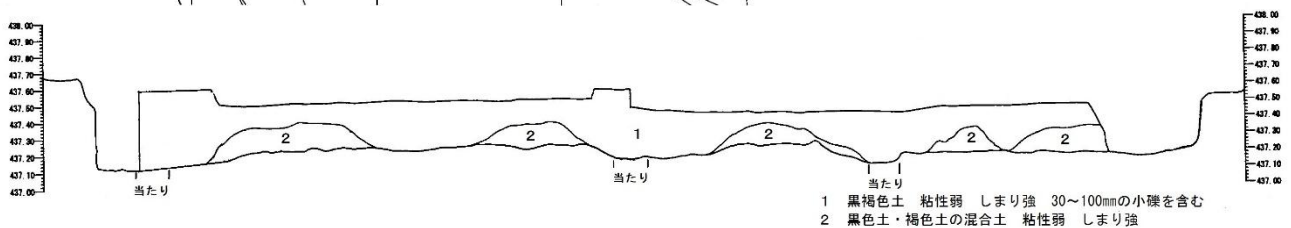
SD 7 北東間 縦断面（南西から撮影）



SD 7 南西角 柱穴 a（東から撮影）



北東間 縦断面図の箇所
（西から撮影）



SD 7 北東間 縦断面図